

ともえ シニアカレッジ

2011 第4回講座 次 第

漢 詩 から 学 ぶ

「菅原道真と漢詩」

函館漢詩文化会

主 宰 山 形 周 文



日 時 : 2012年2月21日(火)

午前10時～11時30分

会 場 : 亀田福祉センター

主 催 : 函館生涯学習インストラクターの会



漢詩から学ぶ

菅原道眞

平成二四年二月二一日

函館漢詩文化会主宰 山形周文



九月十日

平安時代

菅原道眞すげわらのみちざね（八四五〜九〇三）

去年今夜侍清涼

去年の今夜

清涼せいりょうに侍じし

秋思詩篇獨斷腸

秋思しゅうしの詩篇しへん

獨ひとり斷腸だんちよう

恩賜御衣今在此

恩賜おんしの御衣ぎょい

今此いまこゝに在り

捧持毎日拜餘香

捧持ほうじして毎日

餘香よこうを拝す

（◎||涼・腸・香 下平声「陽」韻）

詩約

去年の今夜、清涼殿で天子の側に侍って

「秋思」という勅題で詩を作ったが、

私の詩だけが悲しみに満ちていた。

ご褒美として戴いた天子の衣は、今もここにある。

毎日、両手に捧げては残り香を拝して懐かしく思い出している。

語釈

清涼Ⅱ清涼殿のこと。天子が日常起居している宮殿。公事も行った。秋思詩篇Ⅱ「秋思」という勅題で作った漢詩。断腸Ⅱ腸がちぎれる程に悲しいこと。恩賜Ⅱ天子からの下され物。捧持Ⅱ捧げ持つ。余香Ⅱ残り香。

詩人

菅原道真（すがわらのみちざね、みちまさ、どうしん） 承和十二年（八四五年）～延喜三年（九〇三年）。日本の平安時代前期の学者・漢詩人・政治家。儒学者の家系。祖父清公（きよきみ・きよとも）も父是善（これよし）も文章博士（もんじょうはかせ）・大学頭。多数の門下生が高級官僚を占める。母方の伴氏は、大伴旅人・大伴家持ら高名な歌人を輩出している。三十三歳の若さで文章博士。渤海の大使と詩文の贈答をして「白楽天の再来か」と驚嘆された。四十二歳の時藤原一派（時平）の嫉妬により四国に左遷される。四十六歳にて帰京。五十歳の時、遣唐大使に任命されたが、廃止を建議。道真の建議により遣唐使が廃止される。道真は実際には入唐しなかった。五十歳の時に右大臣右大将になる。藤原時平は左大臣左大将。左が上位。翌年、三善清行は道真に止足を知り引退して生を楽しむよう諭すが、道真はこれを容れなかった。五十七歳の時、時平と共に従二位に叙せられた。斉世（ときよ）親王を皇位に就けて、醍醐天皇からの篡奪を謀ったと誣告され大宰権帥

(だざいごんのそち・ごんのそつ)に左遷される。☆ 太宰府にて「九月十日」のほか三十八首を作詩する。

「東風(こち)吹かば 匂ひをこせよ 梅の花

主なしとて 春な忘れそ」

延喜三年(九〇三年)二月二十五日、大宰府で薨去し同地に葬られた。死後、京都に天変地異が続発。道真の怨霊が都に舞い戻ったと流布された。死後二十年経ち、九二三年、右大臣に復し、正二位を贈られる。死後九十年経ち九三年、正一位左大臣・太政大臣を贈られる。

道真を火雷天神と祭る信仰が起こり、京都に北野天神が創建。命日の二十五日を縁日とする。二月二十五日に天満宮の祭り。

『菅家文章』(かんげぶんそう) 『菅家後集』(かんげごしゅう)・『類聚国史』(るいじゅうこくし) など著述。

道真の誕生の地とされている神社は、三つある。

① 菅大臣神社(かんだいじんじんじや) 通称名称 菅大臣天満宮 京都市下京区仏光寺通新町西入菅大臣町 「東風吹かば」の和歌を詠んだと言われる地。

② 吉祥院天満宮(きつしょういんてんまんぐう) 京都市南区吉祥院政所町三

③ 菅原院天満宮神社（すがわらいんてんまんぐうじんじや） 京都市上京区
烏丸通下立売下る堀松町四〇六

祖父 菅原清公（すがわらの きよきみ・きよとも）は遣唐使判官として空海・最澄らとともに唐へ渡った。帰国後、清公の建議により朝廷における儀式や風俗が唐風に改められた。和風だった人名のつけ方は唐風に改められた。「坂上田村麻呂」の「田村麻呂」のような形式から「菅原道真」の「道真」や「藤原基経」の「基経」といった二文字訓読みか「源融（みなもとの とおる）」の「融」や「源信（みなもとの・まこと）」の「信」など一文字訓読みという形式にし、女性の名前の「〇子」という形式にすることは彼の建言によって導入されたものである。清公は「儒門之領袖」と称された。

▽ 鑑賞

「大鏡」の中にこの漢詩についての記述がある。『かの筑紫にて九月十日 菊の花をご覧じけるついでに、まだ京におはしましし時、九月のこよひ、内裏にて聞くの宴ありしに……この詩いとかしこく人々感じ申されき』
役立たずの時期遅れの諺Ⅱ「十日の菊・六日の菖蒲」



菅原道真公肖像画



太宰府「神のみつかわしめ」御神牛



離家三四月 家を離れること三四月
落涙百千行 落つる涙は百千行
万事皆如夢 万事みな夢の如し
時時仰彼蒼 時々彼の蒼を仰ぐ

(太宰府天満宮宝物殿蔵)



☆ 函館漢詩文化会のお知らせ

李白・杜甫・蘇東坡・王維などの中国の漢詩や、頼山陽・西郷隆盛・新島襄などの日本の漢詩を通じて歴史・文学・哲学等を学ぶ会です。

第三土曜日の午後一時半から函館市本町三十一―三十三
ギャラリー文林館でお願いします。 会費は月五百円です。テキスト代込みです。
ギャラリ―文林館でお願いします。

連絡先 TEL 0138-5210486

☆ 頭の体操・脳トレーニング講座のお知らせ

ことわざ・四字熟語・難読漢字・新聞のニュース・歴史・芥川龍之介や菊池寛などの短編
小説の鑑賞といった様々な角度から勉強をします。

月曜(午後一時)、火曜(御前十時)、水曜(満員)、金曜(十時・午後十二時三十分) 週
一回の講座です頭が衰えないようにトレーニングする勉強会です。会費は月三千元で
す。テキスト代込みです。 連絡先 TEL 090-8427-156